

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

	前回 (令和3年3月)	今回 (令和3年6月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	↓
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	↓

1. 鉱工業生産等の動向

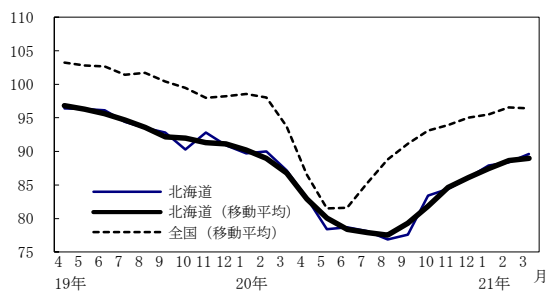
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

1-3月期には、生乳生産は総量では1,032,329t と前年比0.5%増となった。主な水産物¹の生産額(主要9港)は、ほっけ等が増加したため、前年比7.4%増となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直している。

1-3月期の鉱工業生産は、鉄鋼は鋼半製品等が増加したこと、食料品は冷凍水産物等が増加したこと等により、前期比4.7%増となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月(は速報値)。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
食料品	25.9	1.1	4.2	2.4	0.0	1.1
パルプ・紙	13.1	5.9	4.1	▲2.7	4.4	▲4.1
電気機械	9.1	19.5	8.4	3.3	6.3	0.1
鉄鋼	7.9	53.8	49.0	4.2	▲6.6	8.0
化学・石油石炭製品	7.6	34.5	0.8	▲3.0	11.0	8.3
鉱工業	100.0	9.2	4.7	2.1	0.6	1.4

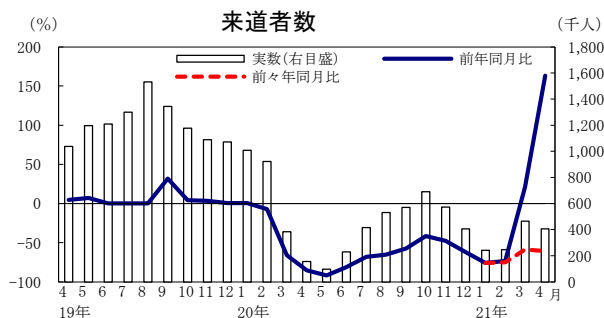
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1-3月期、3月は速報値。

¹主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は弱い動きとなっている。

1－3月期の来道者数は、航空機の利用者減などがあり、前年同期比 58.8%減となった。月別では、1月に前年同月比 76.0%減、2月に同 73.2%減の後、3月は同 21.1%増となった。4月は同 163.2%増（ただし、前々年同月（新型コロナウイルス感染症発生前）比では 60.8%減）となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1－3月期は前期比 1.6%減となった。月別にみると、1月は前月比 1.0%減、2月は同 0.4%増、3月は同 0.2%増となった。

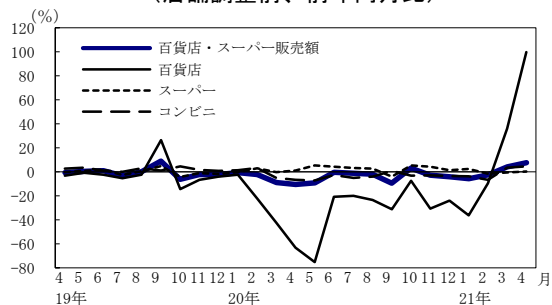
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1－3月期は前年同期比 1.4%減となった。月別にみると、1月は前年同月比 5.6%減、2月は同 2.4%減、3月は同 4.2%増となった。

百貨店は、1－3月期は前年同期比 9.9%減となった。

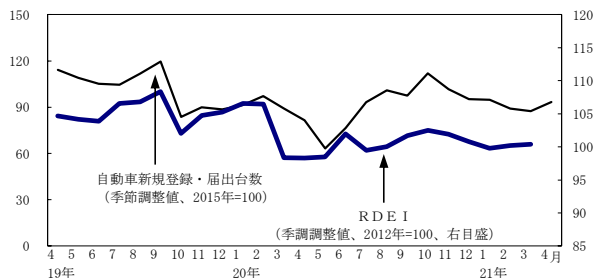
スーパーは、1－3月期は同 0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDEI (消費*1)	▲1.6	▲1.0	0.4	0.2	—
百貨店・スーパー(*2)	▲1.4	▲5.6	▲2.4	4.2	7.8
百貨店(*2)	▲9.9	▲36.3	▲9.4	36.0	99.7
スーパー(*2)	0.2	2.5	▲1.4	▲0.5	0.4
コンビニ(*2)	▲2.2	▲3.6	▲6.7	3.5	4.5
乗用車(*3)	▲0.7	1.9	▲5.7	1.0	14.3
(季節調整値) (*3)	▲12.1	▲0.4	▲6.1	▲1.7	6.7

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

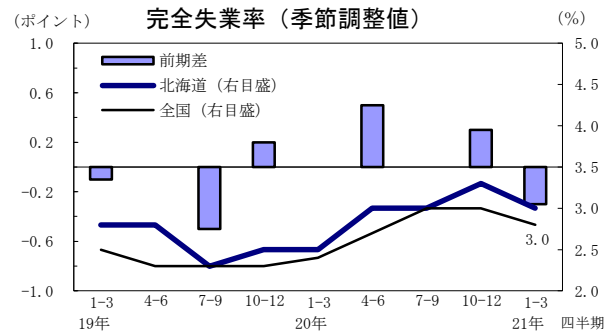
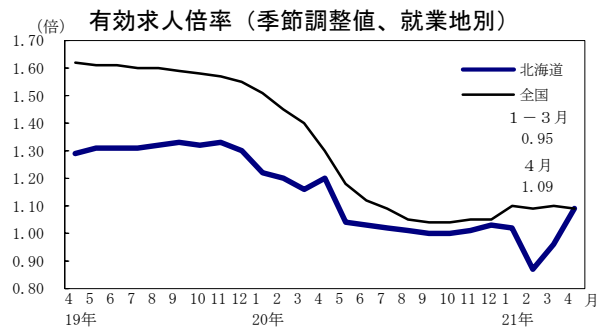
2021年4月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

1. 北海道

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	×	・青果物の収穫が順調であることから、好調をキープしている。前年のりんごが豊作だったこともプラスとなっている(商店街)
		・夜間の人出が減少傾向にあることから、景気はやや悪くなっている。特に飲食店における営業時間の短縮要請が発表された時には、当然のことながら、利用客が激減した(タクシー運転手)
		・コロナ禍のなか、業界ごとの良しあしはあるが、車業界では需要期を迎えていること、各メーカーによる新型車効果がみられることなどから、景気はやや良くなっている(乗用車販売店)
	×	・4月から営業を再開しているが、新型コロナウイルスの影響が大きく、客が全く来店しなくなっている(スナック)
		・民間のプロジェクト工事、北海道新幹線の延伸工事、再生可能エネルギーに関連した工事などが比較的堅調に推移していることから、景気は変わらない(その他サービス業[建設機械リース])
×	・新型コロナウイルスの影響がいまだに続いている。鉄鋼、銅管、アルミ材などの原材料価格が大幅に値上がりしていることもマイナスである(金属製品製造業)	
	・前年度からの繰越し工事と4月着工の新規受注工事で、新年度前半の工事量が当初計画以上に確保できている。現場技術職員の配置も完了している(建設業)	
雇用 関連		・4月の販売量は前年比マイナス42%となっている。3か月前の1月の販売量は前年比マイナス19%であったため、景気は悪くなっている(食料品製造業)
		・観光業界は相変わらず厳しい状況が続いているが、それ以外の業界では営業活動が回復傾向にある。IT業界では在宅ワークを見据え、システム営業や開発の求人が増えており、一般企業も営業職の求人が増加傾向にある(人材派遣会社)
その他の特徴 コメント		・新型コロナウイルス変異株感染者の増加に伴い、北海道及び札幌市によるゴールデンウィーク特別対策が打ち出されたことにより、行動、マインド共、下降局面に入っている(求人情報誌製作会社)
		：感染拡大傾向にあるとはいえ、季節的に外出しやすいシーズンとなり、新型コロナウイルス対策を整えたうえで余暇を楽しもうとする客が増えてきている(観光名所)
		：依然として海外からの予約が皆無である。国内の団体旅行も不振が続いている。一方、コンサートやイベントに伴う宿泊客は回復傾向にある(観光型ホテル)
先行き	家計 動向 関連	判断の理由
		・前年と同じような自粛状況が今後も続くと思われるため、消費動向も同様の状況が続くことになる(スーパー)
	企業 動向 関連	・スポット的な需要はみられるが、全体的には経済が回らなくなっている。今後、客の来店動向や購買状況にも影響することが懸念される(コンビニ)
		・新型コロナウイルス感染対策での行動の自粛、制限がなくなる限り、景気は上向きにならない。ワクチン接種が遅れていることも要因であるが、変異株が出てきていることもあり、景気が良くなるような材料が余りない(司法書士)
	雇用 関連	・新型コロナウイルスの感染拡大が長引いていることから、取引先の投資意欲がかなり減退している。これまでは様子見の状況にあったものが、現在は投資や経費の削減にかじを切っている雰囲気がかがえる(その他サービス業[ソフトウェア開発])
・管内における新型コロナウイルス感染者は多くないが、雇用調整助成金の相談が増えてきていることから、今後も影響が続くことが見込まれる(職業安定所)		
その他の特徴 コメント		○：高齢者のワクチン接種がスタートすることで、現在来店できない年配の客が徐々に活動的になることが見込まれる(百貨店)
		：足元の予約状況などから、輸送量が一層減少することが懸念される(その他サービスの動向を把握できる者[フェリー])

(D I) 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)

